



みなみおか

第 27 号
2021. 3. 10
発行



1年間のまとめをしっかりと!

3月に入り1週間が過ぎました。新型コロナウイルス感染拡大防止により突然学校休業となった日から1年が過ぎました。しかし、感染拡大の勢いは止まらず心配されますが、学校は対応できるようになりました。子ども達は毎日ちゃんとマスクを着用し、マスクを外した時には私語を慎み、教室に入る前には必ず手洗いをし、共同で教具などを使用した後も手洗いする習慣ができました。また、保護者の方にも毎日の健康チェック、体調がすぐれない時の登校の見合わせなど、子ども達、保護者、そして日々消毒や清掃して下さったスタッフの方をはじめ教職員の努力で、このように休業することなく、毎日学校生活を送ることができています。もうしばらく、このような状況が続きますがみんなで乗り越えて行ければと思っています。

さて、3月には6年生が卒業していきます。今年も昨年度同様、卒業式(3月23日)は6年生と保護者(各家庭2名)、教職員のみで実施いたします。でも、今年是在校生に準備などに関わってもらえることができるので、直接卒業生を見送ることはできませんが、会場の飾りや入退場の演奏の録音など頑張っています。準備が進めば進むほど、6年生にとっての小学校生活が短くなっていきます。大変だった1年でしたが、**学校のリーダーとなって活躍してくれた6年生が胸を張って卒業できるよう、6年生と過ごす1日1日を大切にしたい**と思います。



3月の朝会は「1年間のまとめをしよう! ~もう一度教科書を読みましよう~」という話をしました。よくみなさんは、「なぜ、勉強するの?」「なんのために勉強するの?」と聞いてきます。「**勉強は、世界中の人と自分がつながるためにするのだ**」と答えてきました。南丘小の学校目標は『ともにまなび、たくましくいきるみなみおかの子~「つながる」がキーワード~』です。世界中の人とつながるためには、学習している内容をできるだけ具体的にイメージすることが大切だと思います。どのようにするのかということで、6年生の社会の教科書を使って説明しました。

「8世紀の中ごろ、人々は伝染病に苦しみ、貴族の反乱がおこるなど、世の中が乱



れました。この時期に政治を行った聖武天皇は、人々に対して次のようにうたえました。・・・」という文章があります。そして、仏教の力で国じゅうを幸せにする、大仏をつくる、と続くのです。この、「伝染病に苦しみ」というイメージ化ができたかどうかです。これまでの6年生であれば難しかったと思いますが、今年の6年生はコロナ禍を経験しているのでしっかりとイメージ化できると思います。続日本紀には人口

の3割が亡くなったと書いてあります。どれほど怖かったか…想像できると思います。コロナ禍、毎日のように亡くなった人の数がニュースで流れ心を痛めますが、当時は3人に1人亡くなったことになるので想像を絶するぐらい怖かったと思います。知識や技能を身に付け、それをテストして100点であっても、その知識や技能が使えなくては意味がありません。例えばテストが30点だとしても、もっている知識や技能をしっかりと使っているのであれば、100点より価値があることなのだと思います。できる、できないではなく、学んだことをいかに使うかがこれからの時代とても重要視されていくと思います。

だから、1年のまとめとして、もう一度教科書を開いて読んでほしいと思います。かけ算を習ったらどのような場面で使ったか考えたり、スイミーが独りぼっちになった時の寂しさを想像したり・・・教科書をよく読みながら、1年のまとめをしてほしいと思います!進級に向けて、少しずつ準備をしましょう!

マラソン記録会 みんながんばりました!

1月に実施する予定でしたマラソン記録会。緊急事態宣言となったため、2月に延期をしてがんばっている姿を保護者の方にも参観いただきたいと思ったのですが、残念ながら解除が遅れたため、校内での実施となりました。今年、走っているときに密になることをさけるため、学級ごとで実施しました。学習指導要領では「無理のない速さでかけ足を、1・2年生は2~3分程度(約800m)、3・4年生は3~4分程度(約1200m)、5・6年生は5~6分程度(約1500m)続けること」と定められていますので、昨年より少し走る距離を変更しました。目標は「**寒さに負けない体力をつける。自らの課題を見つけ目標に向かって行動できる力を育む**」として、体育の時間を中心に走る学習をしながら、記録会に臨みました。



「走っているときはしんどかったけど、走り終わったら気持ちがいい!」「練習よりタイムがすごく伸びた!」「最後まで歩かず走れた!」など、感想を述べていました。マラソンは、友達との競争より自分との闘いであると思っている子が多かったです。完走できたことを自信に、これからもチャレンジし続けてほしいと思います。